

小松島市国際交流協会

(徳島県小松島市)

外国人の地域順応支援プログラム「わかる！できる!! なかよし!!!日本語教室」



・目的
 当地域に在住する外国人は、殆どが日本人夫の外国人妻である。その外国人生活者の地域への融合を図り、日常生活全般にかかる出産、育児、教育、近所づきあい、就職等の支援を行う。
 それにより、日本語を使って、困ることなく健康で安全に日常生活が送れるようにする。
 自分に自信を持って暮らせるようになる。そして、地域社会の一員として、地域を理解し、また自分から情報を発信できるようになる。

取組1:日本語教室

- 漢字・日本語能力試験の受験勉強など、学習者の希望に沿った日本語学習を行う。
- 42時間(全13回)
- 場所 地元 **徳元産業の応援**
 仏壇会社ホール



仏さまのお祈りのしかたを仏壇会社のスタッフに教えてもらう。

平成25年1月27日
 就業支援職業体験日本語教室を実施。

地元産業の応援
 鳴門の芝原水産(株)において、徳島の地場産業である鳴門わかめの収穫、牡蠣むきの体験をした。



職業体験 学習者の感想

中国人 女性

「私の国で住んでいたところは海がありません。こんなことをしたのは初めてです。いろいろな日本人とも話せたのがよかったです。」

フィリピン人 女性

「私の国のフィリピンでは、海は近くにありますが、こんなに寒くないです。牡蠣やわかめは、お店では見たことがありますが、こういうふうに採るんですね。いい経験になりました。」

取組2:国際ナショナル子育てサークル「ももたろう」

- 取組の目標
 外国人も日本人も子育てについていっしょに学ぶ。お互いの経験をシェアして、よりよい子育てができるようになる。
- 2012年12月に「外国人、日本人みんなで子育てをしよう」と立ち上げた子育てサークルを充実させる。子育てを通して、相談のできる隣人を作る。子育ての情報を日本語とともに学ぶ。学校のお便りの読み方や情報交換ができるようになる。また、外国人の必要な部分の日本語教室も開講する。

漢字や敬語、学校の先生との話し方などを学習して、個人面談などの会話ができるようになる。病院で困らないようにする。健康で安全な生活が送れるようになる。

- 場所 小松島市小松島幼稚園
- 参加者 50人(外国人・日本人、大人子ども)
- 開催時間数 15時間(5回)



新聞の取材を受ける



おにぎり + お弁当 (キャラ弁) 教室



取組3: 日本料理教室

- 日本料理、徳島の郷土料理の調理実習を通して、調理の日本語を学び、外国人が自分でテレビ、本を見ながら調理できることを目指す。日本の料理の基本的な作り方を学び、日々の生活に生かせるようにする。買い物に行き詰ることがないようにする。
- 外国人だけでなく、現在核家族化が進んでいる日本人も、和食を学ぶ。また、和食を通して国際交流が進み、外国人生活者の応援団を作る。

- 場所 小松島市総合福祉センター 調理室・和室
- 託児あり
- 講師 郷土料理研究家(だしソムリエフードコーディネーター)
- 開催時間 12時間(4回)
- 参加者総数 35名(日本人・外国人を問わないうち外国人15名)



取組4: シンポジウム

「外国人生活者の地域順応と協働を考える」

- これまで日本語教育支援に関わってこなかった地域の日本人住民に外国人住民の存在を知ってもらい、日本語教育の大切さや本事業の取組を周知し、連携協力体制づくりの土壌をつくる一歩とする。

- 2013年3月17日(日曜日)
- シンポジウム「外国人生活者の地域順応と協働を考える」
- 講演・パネルディスカッション
小松島市小松島幼稚園園長
小松島市国際交流協会会長
郷土料理研究家
フィリピン人女性
ロシア人女性
- 司会 地域日本語教育コーディネーター



地域における事業の効果、成果

地域の幼稚園が積極的に本事業を応援してくれた。そのおかげで、外国人生活者たちの子どもたちが通う保育園、幼稚園、小学校の父母が、外国人の応援団になってくれている。外国人の父母がPTAに来て、自然に受け入れられるようになってきた。

地域の幼稚園、小学校に外国人、及び外国にルーツを持つ子どもたちの受け入れ体制が整ってきた。
当国際交流協会と学校現場がつながることができるようになった。

今後の課題

外国人居住地域なので、どうやって外国人を集めるか。
日本語教育の必要性をいかに知らせるか。
日本語がうまくない、尻切してしまうと、日本語教室になかなか来なくなる。
子どもが大きくなると、子育てサークルの必要性がなくなり、塾、スポーツなどに行く必要が大きくなる。
それとともに、日本語学習からは離れていく外国人が多い。学習を継続させるにはどうしたらよいか。

外国人生活者が就労するようになってきた。これは日本語教室の結果だと思っている。
また、外国人生活者の日本語によるコミュニケーションが円滑になったので、母国語教室(ロシア語)を当国際交流協会で開催できた。

各学校で、「国際交流」の時間などに、母国の話を講演する外国人も数名できた。
地元テレビ・ラジオ番組に出演する外国人も。

また、PTAで母国の料理の講習会をしたりして、日本人父母との交流を深められるようになった。
また、人権などの講演会で、「外国人生活者」の話をさせていただく機会が増えた。それにより、地域の人たちの外国人生活者への理解が増している。



コーディネーターは広報マンであるべき?

- 外国人居住地域であるため、日本語教室の数があってもいい。
- 地域の人に日本語教室・子育てサークルの存在を知ってもらい、関心を持ってもらう。

地元マスコミ、行政等に関心を持ってもらうため、コーディネーターがPRする。

法務省人権委員任命
↓
地元のテレビ・ラジオ番組出演
講演会などをさせていただくようになる
日本語教室の存在をPRできる。

各自治体の
関心を持って
いただく。協
働の体制が
よくなる。

土曜ワイド





10

外国人の地域対応支援プログラム「わかる!できる!なかつし川日本語教室」

外国人の地域対応支援プログラム「わかる!できる!なかつし川日本語教室」の概要を説明しています。このプログラムは、外国人が地域に定住するための日本語学習を支援することを目的としています。また、地域住民との交流を促進し、互いに理解を深めることを目指しています。

このプログラムは、外国人の地域対応支援プログラム「わかる!できる!なかつし川日本語教室」の概要を説明しています。このプログラムは、外国人が地域に定住するための日本語学習を支援することを目的としています。また、地域住民との交流を促進し、互いに理解を深めることを目指しています。

外国人の地域対応支援プログラム「わかる!できる!なかつし川日本語教室」の概要を説明しています。このプログラムは、外国人が地域に定住するための日本語学習を支援することを目的としています。また、地域住民との交流を促進し、互いに理解を深めることを目指しています。

外国人の地域対応支援プログラム「わかる!できる!なかつし川日本語教室」の概要を説明しています。このプログラムは、外国人が地域に定住するための日本語学習を支援することを目的としています。また、地域住民との交流を促進し、互いに理解を深めることを目指しています。